

行きたくないのに  
むりやり船に乗せられてしまい、  
すうっと岸壁から離れてしまった、  
そんな思いがいたしました。



1982年 新潮社

### 書簡体小説について

手紙形式の小説をいう。ヨーロッパで最初の書簡文学は、12世紀の「アベラルとエロイーズ—愛と修道の手紙」と言われている。18世紀フランスで盛んとなり、多数の書簡体小説が出現する。

書簡体小説の特性は、作中人物が手紙形式で直接相手に感情を込めて語りかけるという点である。ある事件・事実に直面する人物の主観的な判断や感想を相手に書き送るので、より強烈な印象を読者に与えることができる。

宮本氏は自身のエッセイ『命の器』の中で、「錦繡」を執筆する際、影響を受けた書簡体小説として「貧しき人々」(ドストエフスキイ著)を挙げている。

過去は今と、今は未来とつながっている。  
主人公たちのよう、過去に事情があつて別れた2人がどこかで再会し、當時わかりえなかつことか、少しずつ理解できる。そんなことがあると信じたら、今、自分の目の前にある結果がすべてではないような気がした。

**手紙氏がつなぐ距離感**  
重紀が靖明に思いを伝える方法として選んだのは、会うことでも、電話をすることでもなく、手紙氏だった。結果的に互いの距離が近づいたのは、自分や相手の気持ちとじっくり向きあえる手紙氏だからではないでしょうか。

Review